

第31回

全国読書作文

コンクール対象図書

【小学生の部】

図書名 : ペちゃんこスタンレー

ジェフ・ブラウン 著 定価 1,045 円 (税込) あすなろ書房



目がさめたら、スタンレーは「ペちゃんこ」になっていました。なんと身長122 cm厚さ1.3 cmのぺらぺらです。お医者さんにみてもらいましたが問題はないとのことで、スタンレーは元気です。ペちゃんこの体を生かして、狭いところに入ってしまったものをとってあげたり、美術館にかくれて、どろぼうを捕まえることに協力したりと、人々のためになる行いをして活躍します。スタンレーの何事にも動じない前向きな姿勢と冒険心は、子供たちをどんなにか勇気づけることでしょう。また、お父さんお母さんのスタンレーに対する大らかな接し方もすばらしく、物語を面白くしています。ユーモアあふれる子供たちに大人気の物語です。

図書名 : セラピードッグのハナとわたし

堀 直子 著 定価 1,540 円 (税込) 文研出版



犬を飼うためには、守らなければいけないたくさんのルールがあります。飼い主の責任として、正しいしつけとマナーを教えなければいけません。そんな犬たちのなかには、セラピードッグとして医療や介護施設の現場で活躍している犬たちもいます。みなさんは、セラピードッグを知っていますか？セラピードッグは、入院をしている人たちや体が不自由で、さびしい思いをしている人たちとふれあうことで、人々の心や体のリハビリに役立っています。セラピードッグになるためには、専門の訓練士から厳しい訓練を受けることが必要です。この物語は、動物管理センターで拾われたセラピードッグ

見習い犬のハナと、ハナをセラピードックにしてあげたいと願う花菜のお話です。さびしそうな目をして、訓練を受けないハナは、花菜がくつ下で作ったぼーるを受けとることで、訓練を始めることができました。セラピードックになってほしい花菜の思いは、ハナに伝わったのでしょうか？

図書名 : ラグリマが聞こえる

ささぐち ともこ 著 定価 1,650 円 (税込) 汐文社



ミオンは、広島でくらす小学五年生。ある日、幼なじみの奏くんから、近所の古い洋館に「怪人」のようなこわいおじいさんが住みついた、といううわさを聞く。

洋館をのぞきに行ったミオンは、窓から聞きおぼえのあるギターの曲が流れてくるのを耳にした。その曲の題名は「ラグリマ」——スペイン語で「涙」という意味。二年前に交通事故で死んだミオンのパパが、いつもギターで弾いていた曲だ。もっとよく「ラグリマ」を聞きたいと洋館をのぞきこんだミオンは、ギターを弾いていたおじいさんに見つかってしまう。おじいさんはとても古いギターを持っていた。おじいさんのギターは、戦争と原爆を乗り越えた「被爆ギター」だったのだ。

おじいさんは、ギターとおじいさんが経験した原爆の物語を、ミオンに話しはじめた……。

広島に実在する「被爆ギター」を題材に、戦争と原爆を深く見つめた作品。この物語を通して、読者のみなさんの心に、平和と音楽が届きますように。

【小学生・中学生の部共通】

図書名 : 星空をつくる プラネタリウム・クリエイター 大平 貴之

楠 章子 著 定価 1,540 円 (税込) 文研出版



大平貴之さんは、プラネタリウム投影機「メガスター」をつくりました。メガスターは、本物の星空を再現するために、肉眼では見ることができない暗い星までも映しだすことができます。映しだす星の数は2200万個。奥行きのある美しい星空をつくりだします。完成までには、何度も失敗を重ねましたが、大平さんはけっしてあきらめませんでした。そして2019年8月。埼玉西武ライオンズの本拠地メットライフドームでギガニウムの投影がおこなわれました。約一万人がいっしょにドームの天井に映しだされた星空をながめました。正真正銘の世界最大のプラネタリウムです。大平さんは子

どものころ、部屋を暗くして夜光塗料をぬった紙をながめ、その後6300個を投影できるプラネタリウムをつくり、大学時代にはアストロライナーをつくりました。夢は街全体をドームでおおい、ギガニウムで星空を映すこと。この本を通じて、大平さんの夢の実現を読んでみましょう。

図書名 : アドリブ

佐藤 まどか 著 定価 1,540 円 (税込) あすなろ書房



イタリアの小さな町に暮らす少年ユージ。フルートとの電撃的な出会いから5年。ユージは岐路に立たされていた。本気でめざしてもプロになれるのはひとにぎり。クラシック音楽界の厳しさを目のあたりにしたユージの決断とは……？一つの楽曲をどのように表現するのかという芸術観を少年たちが模索し、自分の限界を知り、それを越えていく。そんな彼らがオーディションに果敢に挑戦していく爽やかな青春小説。「本気でなにかに向き合ったことのある人たちは、強いです。彼ら特有の集中力や粘り強さは、たとえその道で成功せずとも、必ずほかの道でも役に立つと信じています」(作者あとがきより)

図書名 : 戦場の秘密図書館

マイク・トムソン 著 定価 1,650 円 (税込) 文溪堂



シリア内戦下の町ダラヤ。政府軍による完全封鎖。日常的な空爆、食料・物資の絶対的な不足。絶望的な状況の中、希望をつないだのが、図書館、本だった。

政府軍から自分たちの街を守りたいと願うダラヤの若者たちは、武器を持って戦うこと以外の形で、街の役に立ちたいと思った。

最大の問題は食べ物の確保。人間には、まず食べるものが必要だ。しかし、すぐにもう一つ、大切なことに気づいた。「栄養が必要なのは、体だけではない。頭や心にだって栄養が必要なんだ」と。

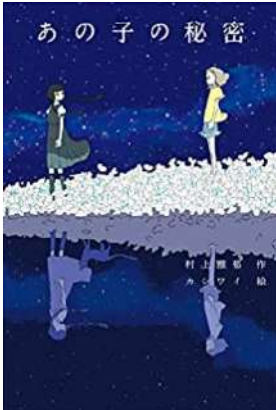
爆撃で破壊された多くの家から、本を救出し、管理するだけでなく、街の人々に読んでもらいたい。集めた本で「図書館」を作り、街の人々が学べるようにすることで、ダラヤの明るい未来を作りたいと考えた。

この図書館で人々は本を読み、勉強会をし、語り合い、「戦後」へと思いをはせた。

戦場となった町の秘密図書館を、命がけで守ろうとした人々の真実の物語。

図書名 : あの子の秘密

村上 雅郁 著 定価 1,540 円 (税込) フレーベル館



家族にもクラスメイトにも心を閉ざす、小6の倉木小夜子(くらき・さよこ)。たったひとりの友だちは誰にも見えない黒猫だが、転校生の三橋明来(みつはし・あくる)に友だちになりたいと、小夜子はずきまとわれるようになる。小夜子と黒猫は警戒するが、明来はおどろくほど早くクラスに溶けこみ人気者となった。ある日、黒猫は明来に姿を見られたと感じとり、秘密がばれないように学校では小夜子と話さないことに決める。その状況にいらだつ小夜子はとうとう明来とぶつかりあってしまう。みんなの前で黒猫のことを言ってしまう後悔する明来。実は、明来にも人には言えない秘密があり小夜子に気づかれてしまう……。「大切な友だちと心をつなぐには?」「心のありかとは?」などの問いに誠実に向かい

合い、その解をさがし求める、ふたりと一匹の果てしない旅の先には意外な結末が待っている。ファンタジックで美しい涙腺崩壊のクライマックスも読み応えあり。

【中学生の部】

図書名 : イーブン

村上 しいこ 著 定価 1,540 円 (税込) 小学館



学校で友だちとケンカしたことをきっかけに孤立してしまい、登校できなくなった中学生の美桜里。ある日、キッチンカーでカレーライスの販売をしているおじさんと少年トムと出会う。ユニークな二人と意気投合。カレーライスの仕込みやキッチンカーでの販売を手伝うことに。

この二人も訳ありのようだ。トムは複雑な環境で育ち、今は、他人であるキッチンカーのおじさんと生活することで自分の生き方を考えていた。美桜里の家庭も、両親が離婚してさみしい思いをしていた。トムは、相談に乗ろうとするが、美桜里はなかなか気持ちを打ち明けられない。

「いろいろ話せるところまで、信用されてないのかな。まだ気持ちの上でイーブンじゃないってことだな」引き分け、対等という意味の「イーブン」。イーブンな関係とは、どういうことだろうか? 人とわかり合えるにはどうした良いのか? 自分らしく生きていくために必要なことを考えさせる成長物語。

図書名 : チェリーシュリンプ わたしは、わたし

ファン・ヨンミ 著 定価 1,540 円 (税込) 金の星社



中学2年生の女子ダヒョンは、父親を事故で亡くし、母と二人暮らし。仲良し5人組でいつも行動していましたが、学校のグループ課題をきっかけに仲間外れになってしまいます。これを機に人間関係を見直し、「友人は同等の関係であるべき。自分を見くびっていたら、他人からも尊重してもらえない。堂々として！」という考え方に変化していきます。10代の友人関係や仲間外れという重いテーマを扱っていますが、明るくテンポのよい文章でおもしろく読むことができます。まわりの目を必要以上に気にして、「みんなに合わせないといけない」といった人間関係に悩むのは、日本も韓国も同じで、日本の10代にも共感できるストーリーです。

◆第9回文学トネ青少年文学賞大賞受賞作（韓国の児童文学賞） ◆第22回「本を読む清州市」青少年部門代表図書選定等々、韓国で13万部突破のヒット作品。

図書名 : その声は、長い旅をした

中澤 晶子 著 定価 1,540 円 (税込) 国土社



ボーイソプラノに想を得ての「声」を主人公にした異色の物語です。四番町少年合唱団の第一ソプラノとして活躍する開（かい）の前に、周囲を圧倒する美声を持つ転入生、翔平があらわれる。やがてソロパートを競うライバルとなったふたりが森の礼拝堂で歌うと、将平に合わせて知らない声が歌いだし、次々と思いがけない出来事が……。変声期を前にした少年たちの心の揺らぎ、演奏会で起こった奇蹟、そして時代を超えた天正遣欧使節の美声の少年コタロウの数奇な運命を重ねて、ミステリアスに描く壮大な物語。ミステリー仕立てで、現在と過去を行きかいながら、歴史に翻弄された声の、もつれた数奇な運命のなぞが解きほぐされていく面白さにのめりこめる作品です。